

# 第13期中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日

株式会社トランスジェニック 証券コード2342

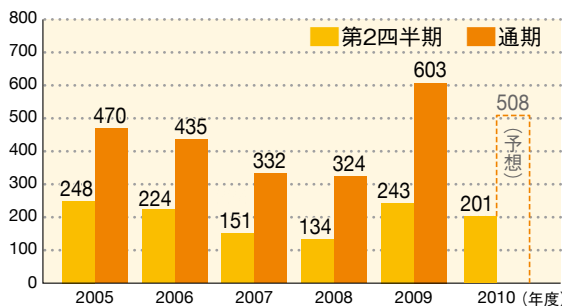
株主のみなさまへ

 **Trans Genic Inc.**

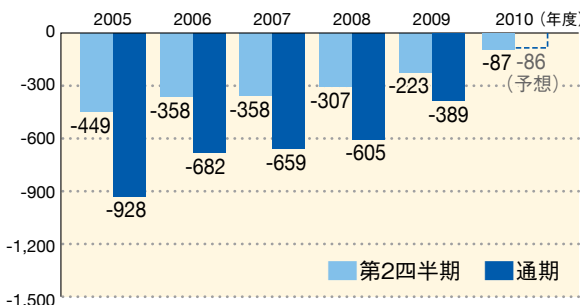
ひとり一人の健康と豊かな暮らしの実現をめざして

## 連結決算ハイライト

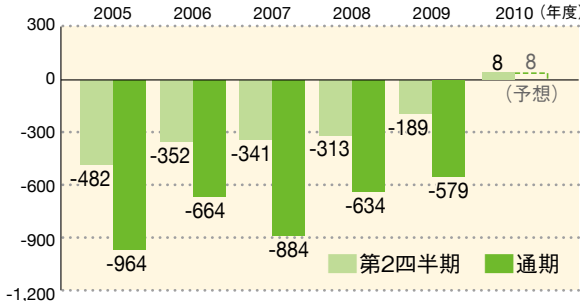
▼売上高(単位:百万円)



▼経常損益(単位:百万円)



▼当期純損益(単位:百万円)



## 概況

当社は、当第2四半期連結累計期間において、前期に引き続き更なる収益基盤の確立を目指した業務の効率化およびコスト削減を行いました。その結果、当第2四半期累計期間における当社グループの業績は、売上高201百万円(前年同期243百万円)で減収となりました。損益については、営業損失81百万円(前年同期215百万円)、経常損失87百万円(前年同期223百万円)、四半期純利益8百万円(前年同期四半期純損失189百万円)といずれも大幅改善しました。

また、平成23年3月期より、マウス事業、抗体事業、試薬販売事業を事業セグメントとしました。セグメント別業績状況は、遺伝子破壊マウス事業においては、疾患モデルマウス販売等マウス関連製品が好調に推移し、売上高113百万円(前年同期86百万円)で増加となりました。また、作業の効率化に努めた結果、営業利益25百万円(前年同期9百万円)となりました。抗体事業においては、自社抗体製品の売上が好調に推移し、売上高32百万円(前年同期25百万円)となりました。また、抗体開発費が減少したことから、営業損失3百万円(前年同期63百万円)と大幅改善しました。試薬販売事業においては、製品ラインナップの増加に伴い売上が増加したことにより54百万円(前年同期47百万円)となり、売上増加に伴い営業利益8百万円(前年同期4百万円)となりました。

## ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第13期の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は生命資源の開発を通じて社会に貢献する企業を目指しております。この目標を達成するために、当事業年度においては遺伝子破壊マウス事業における開発体制の拡充、抗体事業におきましては当社が保有する知的財産の事業化を推進すると同時に、当社にとって有益な各研究機関・企業との様々な提携強化を図ります。

当社はこれらの重点施策に全社員一丸となって取り組み、社会的貢献度の高い企業へ成長し続けることで、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月 代表取締役社長

福永 健司



### Profile 略歴

1969年 8月 13日 生まれ  
 1993年 10月 有限責任監査法人トーマツ入所  
 2003年 5月 トーマツ・ベンチャーサポート株式会社取締役  
 2009年 6月 株式会社トランスジェニック取締役  
 2010年 6月 株式会社トランスジェニック代表取締役社長 現任

### Contents 目次

連結決算ハイライト	1	事業のご紹介	5	会社概要	11
ご挨拶	2	研究開発のご紹介	7	株式の状況	11
トップインタビュー	3	連結財務諸表	10	株主メモ	11
				IRからのお知らせ	11

## Q1. 平成23年3月期業績見通しについてお聞かせください。

平成22年3月期において、選択と集中を掲げての主力3事業への注力および抜本的な経費削減により、収益構造改善の方向性を見出しました。その結果、平成23年3月期業績予想については、収益基盤の確立を目指した改革の成果が現れてきており、売上高508百万円(前年同期603百万円)の見込みです。また、損益については、営業利益△80百万円(前年同期△385百万円)、当期純利益8百万円(前年同期△579百万円)となり、黒字化の見込みです。

## Q2. このたびファイナンスを実施しましたが、目的と中長期的な戦略についてお聞かせください。

当社は、平成22年3月期において積極的な収益構造の改革を図り、各事業において大きく経常利益を改善いたしました。また、腫瘍マーカーシーズの開発・特許成立が実現しました。そして、今後、さらなる事業基盤の強化を推進し、企業価値を高めることを検討してまいりました。

具体的な基盤強化については、動物関連の事業拡大を目指して、動物飼育設備の拡充および

有用なモデルマウス技術等に関する研究開発の推進などを検討しております。また、事業拡大および研究開発活動を効率的に推進することを目的としたM&A、資本・業務提携を積極的に行います。一方、抗体事業においては、腫がんマーカーをはじめとする、がんマーカーの研究開発活動を推進中であり、国内のみならず海外へ向けての展開などを計画・実行しております。

当社は、以上のことを実現するため、ファイナンスを実施いたしました。

中長期的には、施設拡充により増加するマウス作製受託、および安定した収益となる抗体・試薬販売事業により収益を確保しつつ、将来的な収益基盤となる有望なバイオマーカーの開発、及び市場が大きく、かつ高収益率が期待できる、有用なモデルマウス開発へ経営資源を投入します。

## Q3. ハルピン医科大学と共同研究契約を締結しましたが、目的と今後の海外展開についてお聞かせください。

ハルピン医科大学との共同研究は、有用なバイオマーカーの開発を目指すもので、ハルピン医科大学から得られるバイオマーカー候補の情報に基づき当社のGANP<sup>®</sup>マウス抗体作製技術で抗体を開発し、臨床的に有用なバイオマーカーの探索を行います。当社のバイオマーカー開発パイプラインの拡充を図るものです。

このたびのハルピン医科大学との共同研究契約を端緒に、中国を含めた海外展開を積極的に進めてまいります。

## Q4. 最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

財務・損益構造改革の目途がたち、当社の経営課題でありました黒字化を視野に捉える段階となりました。この経営課題実現に向け、既存事業の技術拡充および事業規模の拡大に取り組みます。また、国内のみならず海外への営業を積極的にすすめます。また、将来的に高収益率が期待できるモデルマウスの自社開発および診断薬シーズ開発といったトランスジェニック社独自の研究開発を推進します。当社は、これらの取り組みへ効率的に経営資源を投入してまいります。

以上のように、経営課題の達成に向けた積極的な取り組みとともに、研究開発型ベンチャーの挑戦を続けます。

何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。



## 事業のご紹介

●各セグメントの取り組みをご紹介いたします。

### マウス事業

当社の独自技術である遺伝子トラップマウス作製技術により作製した遺伝子破壊マウス750系統および遺伝子破壊ES細胞2,000系統の情報を保有し、当社ホームページ上の『TG Resource Bank<sup>®</sup>』および国立遺伝学研究所のデータベースとして公開し、系統ごとに使用权を供与しています。また、研究者が標的とする遺伝子を破壊したマウスの作製受託や疾患モデルマウスの提供も収益の基盤となっています。

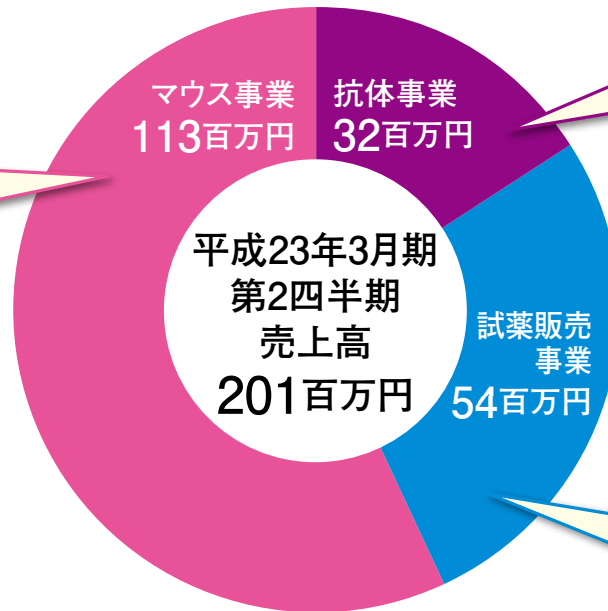
また、創薬支援の一環として、国内では入手がたいアルツハイマーやパーキンソン病の動物モデルでの薬剤評価システムを提供しています。特に、中枢神経系の医薬品開発に注力する製薬メーカーの需要が高まっています。



▲遺伝子破壊マウス

好調に推移

### ▼売上高構成



平成23年3月期  
第2四半期  
売上高  
201百万円

### 抗体事業

当社のGANP<sup>®</sup>マウス技術を用いてがんや糖尿病といった市場性が期待される抗体を作製し提供しています。現在、当社の研究開発による提供抗体数は約600種類にのぼります。また、研究者からの抗体作製受託も行っております。さらに、抗体作製技術を発展させ、各研究機関から得られたバイオマーカー候補分子情報に基づき開発した抗体について、診断薬を目指して研究開発に取り組んでいます。尿中腫瘍マーカー、膵がんマーカーに引き続き、各種バイオマーカーの拡充につとめています。



▲開発抗体製品

好調に推移

### 試薬販売事業

ライフサイエンス研究支援のための、研究用試薬販売(輸入抗体製品、サイトカイン)および情報提供を展開しています。現在、当社の取扱品目数は、25,000種類です。今後も、サイトカインを含めた研究用試薬の拡充につとめ、ライフサイエンスの支援をまいります。



▲研究用試薬

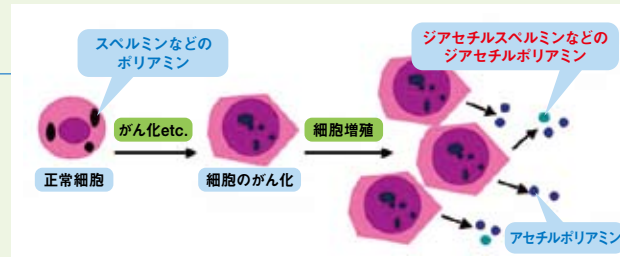
好調に推移

## Keywords キーワード

### 尿中がんマーカー(ジアセチルスベルミン)

ジアセチルスベルミンとは、細胞が分裂(増殖)するときに、尿中に排泄されるものです。妊婦や成長中の子供たちにはたくさん出ますが、成人では大体一定の値内におさまります。尿検査をすると、その範囲を超えて出ている場合、何らかの細胞つまり

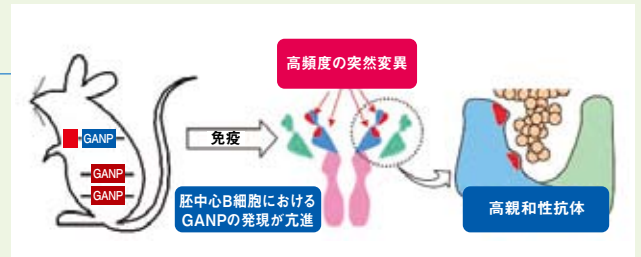
がん細胞が増殖しているのではないかと考えて開発されたマーカーです。ジアセチルスベルミンは、その尿中排泄量と癌との関連性が特に高いことが最近の研究より明らかになっております。



### GANP<sup>®</sup>マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein)とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。GANP<sup>®</sup>マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP<sup>®</sup>マウスを用いて抗体を作

製する技術です。GANP<sup>®</sup>マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。当社は、本技術による抗体の自社製品開発、および本技術のライセンス供与を行い、抗体事業収益の柱としております。



研究開発のご紹介

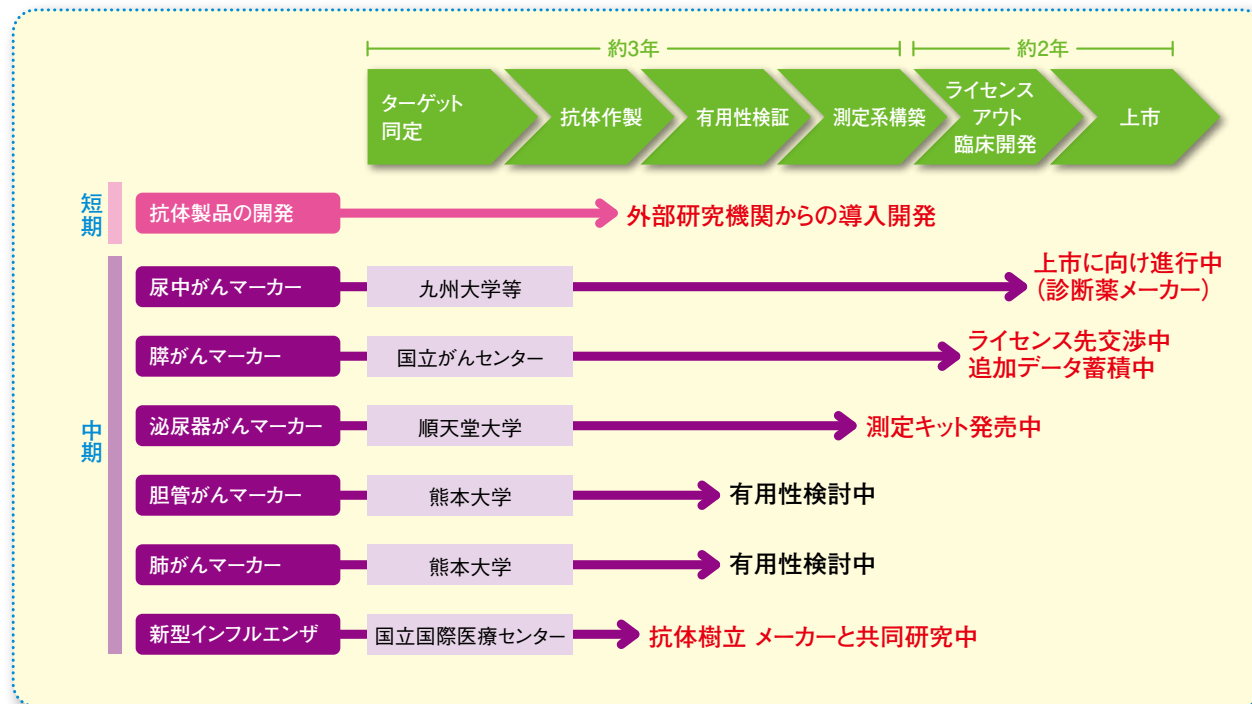
● 研究開発基本方針

研究開発テーマについては、収益基盤の早期確立を目指すため、選択と集中を基本に絞り込みを行って参りました。今後は選択と集中を進める中で、マウス事業における有用なモデルマウス開発の開始、さらに抗体事業におけるシーズ探索の拡充の一環としてハルピン医科大学との共同研究開始と、将来的な収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。



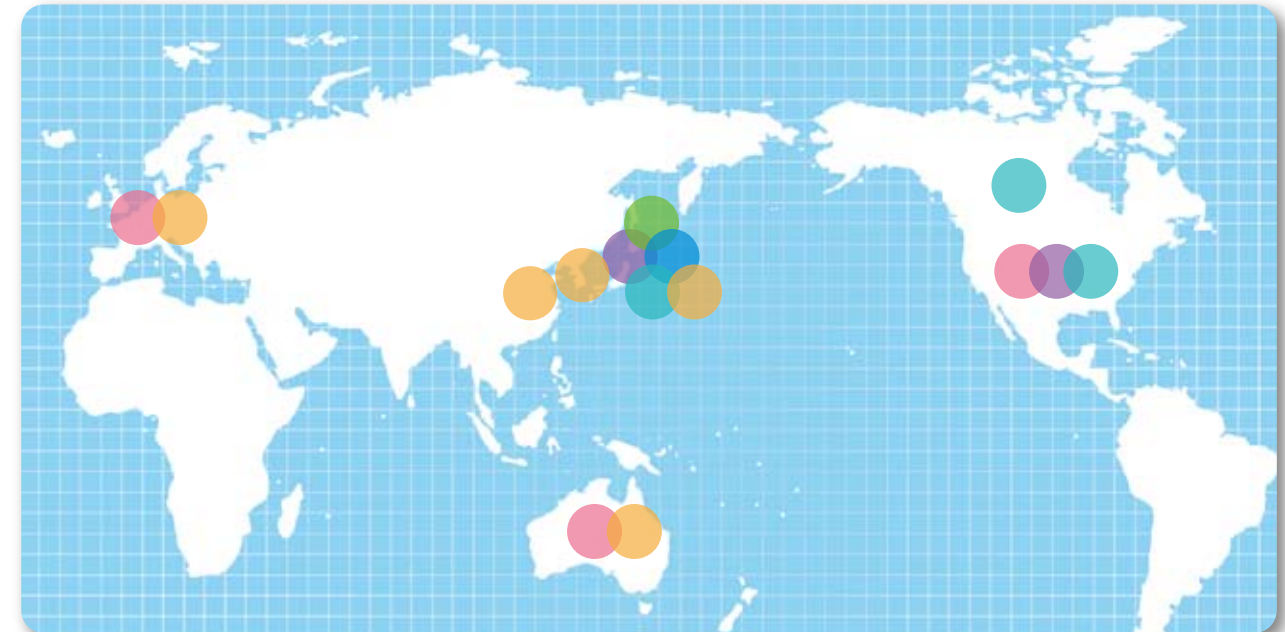
● 研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、GANP<sup>®</sup> マウス技術を用いて作製した抗体を様々なバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めて参ります。



● 主な特許取得マップ

トランスジェニック社の特許群は、トラップ技術関連、GANPマウス技術関連、腫瘍マーカーなど、事業の根幹となっております。また、米国において成立いたしました尿中がんマーカー特許は、上市に向け日本国内の開発も進んでおり、成長が期待できます。



- トラップ法関連特許 米国、欧州、豪州
- 尿中がんマーカー(ジアセチルスベルミン)特許 日本、米国
- 早期がんマーカー(ジアセチルスベルミン)特許 日本
- 膵がんマーカー特許 日本
- GANPタンパク質特許 日本、米国、カナダ
- GANPマウス関連特許 日本、欧州、中国、韓国、豪州

## 研究開発のご紹介

## ● 研究開発トピックス

2010年 1月	「GANP <sup>®</sup> マウス技術」に関する特許が日本にて成立
3月	「GANP <sup>®</sup> マウス技術」に関する特許が韓国にて成立 「トラップマウス技術」に関する特許が欧州にて成立
4月	「GANP <sup>®</sup> マウス技術」の高親和性抗体製造方法に関する特許が日本にて成立 尿サンプルによる癌診断の測定系に関する特許が米国にて成立
6月	「トラップマウス技術」に関する特許が中国にて成立
9月	タンパク質高発現細胞作製サービス開始
10月	株式会社GMJとの業務提携 ハルピン医科大学との共同研究契約締結
11月	早期癌マーカーとしてのジアセチルスベルミンに関する特許が国内で成立

## 【早期癌マーカーとしてのジアセチルスベルミン】

2010年11月4日に国内で特許が成立しました「早期癌マーカーとしてのジアセチルスベルミン」についてご説明いたします。

このたび成立した特許は、尿中に排泄されるジアセチルスベルミンが、既存の腫瘍マーカーと比べて早期癌のマーカーとなることを見出し、日本国内において権利化を図ったものです。すでに当社は、このジアセチルスベルミンに対する抗体を作製し、尿サンプルによる癌診断の測定系に関する特許を、日本国内および米国において保有しています(特許第3816512号、US7,700,741)。

今回の特許成立により、早期癌を対象に知的財産権が保護され、当社が有する尿サンプルによる癌診断の測定系における知的財産権の権利範囲を広げ、当社ライセンス活動をさらに強力にサポートすることが可能になります。



## Financial Statements

## 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	1,194,115	1,139,281
固定資産	610,461	558,200
有形固定資産	352,742	320,000
無形固定資産	179,384	172,077
投資その他の資産	78,334	66,122
<b>資産合計</b>	<b>1,804,576</b>	<b>1,697,482</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	158,333	73,151
固定負債	115,202	21,856
<b>負債合計</b>	<b>273,535</b>	<b>95,007</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	1,516,218	1,565,201
資本金	4,855,225	4,855,225
利益剰余金	△3,337,224	△3,288,241
自己株式	△1,782	△1,782
評価・換算差額等	717	1,349
その他有価証券評価差額金	717	1,349
新株予約権	10,537	32,054
少数株主持分	3,567	3,868
<b>純資産合計</b>	<b>1,531,040</b>	<b>1,602,474</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,804,576</b>	<b>1,697,482</b>

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	243,550	201,365
売上原価	139,330	92,264
売上総利益	104,219	109,101
販売費及び一般管理費	319,401	190,870
営業損失(△)	△215,182	△81,769
営業外収益	11,198	3,578
営業外費用	19,970	9,313
経常損失(△)	△223,954	△87,504
特別利益	11,164	106,250
特別損失	21,627	3,448
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△234,416	15,297
法人税、住民税及び事業税	2,427	1,846
法人税等調整額	—	4,763
少数株主損益調整前四半期純利益	—	8,687
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△46,998	301
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△189,845	8,385

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

区分	前第2四半期 連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△214,895	△123,817
投資活動によるキャッシュ・フロー	△135,944	705,086
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,314	16,860
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△365,153	598,128
現金及び現金同等物の期首残高	1,378,300	446,357
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	141,185	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△42,560
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,154,332	1,001,925

## ● 会社概要 2010年9月30日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	4,855百万円
従業員数	29名
事業所	
本社	熊本市南熊本三丁目14番3号
神戸研究所	神戸市中央区港島南町七丁目1番地14

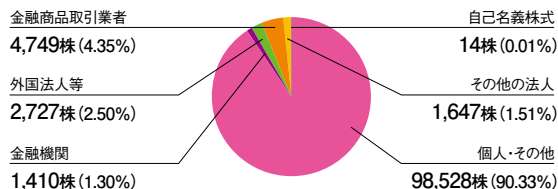
## ● 株式の状況 2010年9月30日現在

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	109,075株
株主数	12,820名

### 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大和証券株式会社	1,512	1.38
日本生命保険相互会社	1,350	1.23
上永 智臣	972	0.89
野村証券株式会社	826	0.75
佐賀 芳行	800	0.73
中村 英幸	722	0.66
野村証券株式会社 野村ジョイ	670	0.61
株式会社サンライズ・アカウンティング・インターナショナル	600	0.55
モルガンスタンレー・アンド・カンパニー インターナショナルピーエルシー	564	0.51
須川 近信	501	0.45

### 所有者別株式分布状況



## ● 役員 2010年9月30日現在

代表取締役社長	福永 健司	常勤監査役	増岡 通夫
取締役	山村 研一	監査役	遠藤 了
取締役	坂本 珠美	監査役	佐藤 貴夫
取締役	能勢 博		

## ● 株主メモ

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所 マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL:0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を  
することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## IRからのお知らせ

当社のホームページがリニューアルいたしました(2010年9月17日より)。最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聴かせください。  
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

[ir@transgenic.co.jp](mailto:ir@transgenic.co.jp)